

## 平成 24 年度第 3 回北海道立図書館協議会会議概要

日 時：平成 25 年 3 月 14 日（木）14:00～16:05

会 場：北海道立図書館 会議室

出席者：協議会委員 7 名、道立図書館職員 14 名

傍聴者：なし

### 議事等

#### (1) 報告

ア 「北海道立図書館事業推進計画（平成 25 年度～29 年度）」について

イ 「北海道立図書館資料収集計画」（平成 25 年度～29 年度）について

ウ その他

#### (2) 議題

ア 「平成 25 年度北海道立図書館運営計画」（案）について

#### (3) その他

会議概要（○～委員の発言 ・～道立図書館職員の発言）

#### (1) 報告

ア 「北海道立図書館事業推進計画（平成 25 年度～29 年度）」について

鈴木北方資料室長説明

（資料：「北海道立図書館事業推進計画（平成 25 年度～29 年度）」概要版及び本文）

#### [第 3 章 施策目標 1]

- 2 つ目の目標として、図書館設置の促進の働きかけをするとありますが、公共図書館がない市町村の小・中学校に対する支援はどのように行っているのですか。
- ・ 現在、道内 179 市町村のうち 82 市町村にまだ図書館が設置されていないのですが、公民館図書室などを通じて支援しています。図書館と図書室では職員の有無に大きな違いがあるので、その点からも図書館設置を支援していきます。
- 公民館図書室などで担当職員がいるところといないところでは対応の違いがはっきりでているので、そういうことに配慮しながら支援していくということですね。

#### [第 3 章 施策目標 4]

- 3 つ目の目標として「道立学校の学校図書館を支援します」とあるが、具体的に教えてください。

- ・ 道立学校に対する資料の貸出しや、図書室の環境改善（古い図書の処分・レイアウト変更）などを行い、生徒が図書室に来てくれるよう、支援していきたいと考えています。
- 「他機関との連携による子どもの読書環境の整備」の主な取組として「研修の実施」とありますが、司書教諭を対象とした研修も行われるのですか。
  - ・ 司書教諭対象という研修ではなく、司書教諭を含めた担当職員の研修として行います。
- 教員研修について、長期休業中の研修の場を提供するという行っていました、それとは別の研修ですか。
  - ・ それも含めた研修です。長期休業中の研修は、夏休み1回・冬休み1回、道立図書館で募集して職員の校外研修という形で行っています。

[第4章 施策を推進するために]

- 2・3項目について、文末に「…検討が求められています。」「…検討を開始する必要があります。」と現状認識に止まった表現となっており、いつからいつまでどのように検討するのかというのが見えません。施策を推進するために、具体的に考えていることはありませんか。
  - ・ 書庫も狭く建物も古く、近隣施設との関連性など見直しの時期に来ているという問題意識をもっているため、この推進計画の期間中にも検討を始められればと考えています。
- 委員の中から検討すべきであるという意見が出ているということで、確認しておきたいと思います。

[その他]

- 道立図書館の3つの運営の基本方針の中に、「図書館のセンターとして」とありますが、専門図書館・大学図書館を含めた図書館のセンターとして道立図書館を整備していくということですか。
  - ・ 現在、各館種の団体が集まる連絡会議において情報交換をしていますが、連携・協力しあっているということです。

イ 「北海道立図書館資料収集計画」（平成25年度～29年度）について

金山利用サービス部長説明 （資料：「北海道立図書館資料収集計画（平成25年度～29年度）」）

[1 重点分野]

- 1番目に「課題解決型サービスに対応するための資料」を収集するとあるが、レファレンスサービスをする人的なサポートについてはどのように考えていますか。
  - ・ この資料を使って具体的にどのようなサービスをするのかということであれば、事業推進計画の課題解

決型サービス（第3章 施策目標2）の主な取組に掲げる内容です。

- 課題解決型サービスにあたる司書が十分な相談に応えられる専門性を身につけるための資料ですか。それとも、利用者の課題解決に必要な資料ですか。
  - ・ 職員のスキルアップというよりも、利用者の課題解決に役立つ資料です。

## [2 購入による収集]

- 北方資料について、新刊書をもれなく収集するとあるが、何冊くらい購入する予定ですか。
  - ・ 書店を通じて年間約1千冊強くらい購入しています。北方資料室全体では2万冊以上受け入れているので、購入割合は1割弱程度で、寄贈による収集がほとんどです。
- 漏れなく購入するという事は可能だということですか。
  - ・ 購入に関しては可能です。北方資料の一番の課題は、古い資料をいかにデジタル化していくかということです。
- 課題解決型サービス・協力レファレンスに対応するための資料について、「年度ごとにテーマを設定し、重点的に充実を図る」とありますが、予算配分はどのように考えていますか。
  - ・ 具体的な予算配分については考えていません。意識的に購入するというだけで、結果としてどれくらいだったか分かるという状況です。
- 例年より10%増やすということではなく、意識的に購入した結果、そうなるということですか。
  - ・ はい。というのは、例えばテーマに関する資料が図書分類表の3類に該当するものだと、はっきり整理することができないからです。しかし、こういうサービスをやっていくための資料収集であるということは十分意識し、結果として分かるようにしていこうと考えています。
- 例えばその分野について、その年にどのような本が出版されるかということも含めて、額を決めるということが難しいということですか。
  - ・ ここ2、3年の傾向から、資料がどれくらい出版されるか予想し、金額を算出することはできないことではないが、限られた予算の中で各分野の資料を整備する必要があるため、具体的な収集に反映できる状況ではありません。
- 選書の方針として、25年度の暮らしの支援に関わる資料収集に重きを置くと考えてよいでしょうか。
  - ・ はい、優先的に選書します。
- 現在の蔵書構成の中で、この部分が足りないという作業はしていますか。
  - ・ 詳細にはしていないので、どの程度のものをどれくらい整備する必要があるのかという検証を含めて行います。
- 現状の蔵書構成で、どの程度、役に立つのかきちっと押さえておく必要があります。
  - ・ 平成22・23年度の「住民生活に光をそそぐ交付金」により、5年前に遡って整備できなかった資料を揃えることができました。それをベースに、テーマに沿って新しく出版される資料を加え、来館利用者の

反応を見ながら、どの程度のものを購入していくか検討をしていきたいと思ひます。

○ 大学図書館等からのアドバイスや相互の資料の連携などについて考えていますか。

- ・ 例えは、大学図書館で受け入れた資料について、公共図書館で受け入れてもいい内容なのかといった意見交流・情報交換ができればいいが、今のところ新着情報をもらって必要があったら選書するという状況です。

○ 重点分野で希望する本を利用者に聞くということはないのですか。

- ・ リクエスト制度により利用者の希望をくみ上げているので、特に考えていません。ただ、もっと高度なレベルの本を揃えれば、そのレベルに合うようなリクエストも挙がってくるのではないかと思ひます。

## ウ その他

(ア) インターネット予約貸出しサービスに係るアンケート結果について

金山利用サービス部長説明 (資料：インターネット予約貸出しサービスに係るアンケート調査結果)

(イ) 地域資料に関する実態調査について

鈴木北方資料室長説明

(資料：地域資料に関する実態調査集計結果)

○ 地域資料の収集について、地方自治体の制度として行政資料は図書館に納本するというきまりはありませんか。

- ・ 規則ではないが、発行したら図書館に納めなさいと町の総務課から通知を出していたところが、1自治体ありました。図書館からこまめに各行政機関に出向き収集しているというのが実態のようです。

また、滝川市では、市立図書館が市役所の2階にオープンしましたが、行政機関の中で一番人が集まる場所ということで、行政機関の方から積極的に図書館に資料を持ってくると聞いています。

○ 調査結果を研修にも活かしたいという報告でしたので、是非活用していただきたいと思ひます。

## (2) 議題

ア 「平成25年度北海道立図書館運営計画」(案)について

金山利用サービス部長説明

(資料：「平成25年度北海道立図書館運営計画」(案))

### [2 事業計画の概要]

○ 市町村活動支援事業(2p)について、子ども読書活動支援に重点がおかれたので実施予定市町村数が半分ほどに減り、厳しい状況だと思ひました。

今まで運営相談を行った市町村のフォローアップはどのようにしているのですか。

- ・ 特に具体的な調査は行っていませんが、研修した内容についてのその後など、どういうふうに進んでいるか日常的に連絡を取りながらやっています。

○ 研修の実施（3p）について、職員に対する研修については、これまでも雇用形態や司書の資格の有無に関係なく研修していると思うが、館長を対象とした研修はやっていないのですか。

- ・ 文部科学省主催で新任図書館長研修を4日間行っています。北海道は、道立図書館を会場としてインターネット配信で受講できるようになっています。その他、北海道図書館振興協議会の主催で全道図書館長会議が11月頃行われ、講話や情報交換を行っています。今年度は長野県小布施町立図書館長を招いて、連携事業や特色ある活動について講話をいただきました。

○ その館長会議は自由参加ですか。

- ・ 公共図書館であれば、職員を含めて自由参加です。

○ 市町村支援をする上では、館長に図書館を理解してもらい自治体に対して働きかけをしてもらうことが大切だと思うので、館長を対象とした研修を道立図書館で行うとよいのではないかと思います。

- ・ 専門研修の中で、経営についてテーマの一つとして設定しているので、広く館長にも参加してもらえよう働きかけをしていきたいと思います。

○ 自治体運営との関わりの中で、館長の意識を高めてもらうような研修があるといいと思います。

○ 学校図書館環境改善事業（9p）について、実施する一つの学校にその自治体の職員や先生しか参加しないのですか。

- ・ 実施する市町村によって、近隣市町村の職員が集まることもあれば、その学校の先生・教育委員会職員・ボランティアが集まることもあります。

○ それは道立図書館から声かけしているのですか。

- ・ 道立図書館からは、基本的に図書館職員、学校職員、ボランティアには声をかけているので、最低でも三者は集まります。

○ 自治体を点で潰していくと百いくつもあって大変ですが、面で考えると近隣市町村が集まることができるので、そんな形でやっていくと広く支援ができるのではないかと思います。

- ・ そのようなことも含め、実施する学校と連絡をとりながら実施していきます。

また、市町村活動支援事業について、今年から各管内の教育局が市町村の状況を踏まえて、事業を紹介し取りまとめを行う仕組みにしました。これまでのように道立図書館から直接市町村に周知すると広がりがないので、教育局がしっかり間に入り研修内容等を踏まえながらやっていくことにしています。

### [3 予算の概要]

○ 図書館情報システム整備費について、「システム一元化により道情報政策課へ移行」とあるが、システ

ム経費だけが移っただけで、人の動きはないということですか。

- ・ そうです。
- システムに関わる計画の立案など、全部移行するということですか。
  - ・ 情報政策課が単独で考えるということはありません。利用サービス課が中心になって次期システムについて検討している最中です。
- 道立図書館でシステムの管理・運営案を出し予算申請するという形になるのですか。
  - ・ 道立図書館で組み立て、情報政策課で取りまとめることになります。
- 予算のシーリングがかかる中で、事業規模が縮小される心配はありませんか。
  - ・ 一括してまとめることによって、逆にスケールメリットが生じるのではないかと期待しています。

#### [6 施設及び設備の整備計画]

- 施設等の補修の取組について、前年度の運営計画では「大規模改修工事の早期実現に努める」とあり、トーンダウンしたように思うが、その背景について説明してください。
  - ・ 大規模改修を目指しているが、予算や他の施設の優先順位などから当面具体的な見込みがないので、既存施設の補修としました。
- 優先順位としては低いということですね。図書館の活動について全体として理解を得ながら、協議会の中でも必要であれば強く要望するような議論もしていきたいと思えます。

#### [最後に]

- 皆さんの意見が反映されるような形で、計画を実施してほしいと思えます。

#### (3) その他（情報提供）

第 55 回（平成 25 年度）北海道図書館大会について 千田総務企画部長説明  
『北方資料室ニュース』について 鈴木北方資料室長説明

（以下、資料配付のみ）

『道新フムフムぷらす+ 第 18 号』

『あけぼのつうしん No.44』